

ほんきょうろ

本郷路(ほんきょうろ)とは、人類すべてが本心から慕い求める故郷である理想世界=地上天国を実現するための道路という意味です。

(題字は文鮮明師)



5周年記念号 1987 VOL.28, 29

発行日/昭和62年4月1日(毎月1日発行)
定価/年間購読 3000円(送料込)
発行所/©国際ハイウェイ建設事業団
〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-12
新大栄ビル3号館4階 ☎03(496)-2862
郵便振替・東京4-150968(本郷路編集部)

21世紀を築く国際ハイウェイ



日韓トンネルと対馬の復興構想図(案)

あいさつ

国際ハイウェイ建設事業団会長
久保木 修己



この構想が提唱された五年前に比べると、今日の国際情勢下において、このプロジェクトの重要性が一段と高まってきたように思われます。
現在の日本は、経済問題を中心として国際的に困難な立場に立たされています。...

国際ハイウェイ実現のため国際ハイウェイ建設事業団が設立されてから五年が経過いたしました。...

この構想が提唱された五年前に比べると、今日の国際情勢下において、このプロジェクトの重要性が一段と高まってきたように思われます。...

国際ハイウェイの提唱



国際文化財団創設者
文鮮明師

東洋と西洋を結ぶ道

私(ひと)の提議をしたところ、それは中国から韓国を通り日本に至る「アジア大ハイウェイ」を建設し、ゆくゆくは全世界に通じる「自由圏大ハイウェイ」を建設することです。...

東洋と西洋を結ぶ道、アジア諸国間では自由往来が可能となり、その結果、北韓は軍事的な侵略を放棄し、平和的統合の道を選ぶを得るようになるでしょう。...

未来をつなぐ国際ハイウェイ・プロジェクト



国際文化財団創設者 文鮮明師

人類一家族という理想を実現する方向で、東洋と西洋の諸国を連結するのが、国際ハイウェイの構想です。世界の人々をつなぐ高速輸送のネットワークをつくり、世界の至る所に一日以内で往復できるようになれば、それだけ地上天国の実現は早いといえるでしょう。...

- ビデオ ●「本郷路」国際ハイウェイ(10~15分、日、英語)
パンフレット ●「国際ハイウェイ・プロジェクト」(B5判、日、英語)
新聞 ●「本郷路」月刊(タブロイド判)
●お申し込みお問い合わせ ☎03-496-2862

国際ハイウェイ建設事業団
〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-12 新大栄ビル3号館4階 ☎03(496)2893

会員募集
●正会員 年額 1口 5,000円
●賛助会員 年額 個人 1口 10,000円以上 年額 法人 1口 50,000円以上
●お申し込み先 ☎03-496-9211
国際ハイウェイ・プロジェクト
日韓トンネル研究会

CLIP TAPE 3-60N KOKUYO

坑掘削始まる



日韓トンネル調査斜坑基地



高さ5.5mの調査斜坑は、(株)熊谷組・共同企業体によって掘削中。3月末掘り進められている。



86年10月、日韓両国の研究会役員による合同会議がもたれ、両国が共同してハイウェイ建設を進めることを確認した

こうして日本でのトンネル建設活動を受けて韓国では、八六年十月二十八日、国際ハイウェイ研究会がソウルで発足。さらに翌二十九日には、同研究会釜山支部も発足し、国際ハイウェイの実現に向けて、日本と韓国の協力体制が確立されることになった。

国際ハイウェイ構想の提唱

1981年11月、韓国ソウルで開催された第10回科学の統一に関する国際会議(ICUS)の席上、同会議の提唱者である文鮮明師は、世界が抱える諸問題を解決する手段として国際ハイウェイ構想を提唱した。



日韓トンネル研究会総会
八三年五月に発足した日韓トンネル研究会は千名以上の会員を有し、日韓ルートの研究を続けている。

5年間のフォトアルバム



海洋ボーリング
86年5月、対馬西沖合の水深約150mの海域で、海洋ボーリングが行われた。



海洋調査

日韓ルート海域部では、82年から海底地質と環境の調査がルート全域にわたって実施された。



榎栗玄太郎理事長

国際ハイウェイ建設の歩み

国際ハイウェイ建設事業団の設立から五年が経過した。その間、同事業団では、国際ハイウェイの第一段階として日韓トンネル建設に取り組み、その実現をめざして本格的な調査、研究活動を展開した。まず八二年八月から、三隻の調査船が購入され、トンネル建設の二年十月から、対馬海峡全域にわたって音波探査が繰り返された。そして八六年四月には、対馬海峡で海洋ボーリングが行われ、海底下五百メートルのコアサンプルが採取されて、今後の海底トンネル計画を進めていく上で貴重な地質データがもたらされた。

陸・海域での地質調査に加えてトンネルルート全域にわたる環境調査も実施され、環境アセスの立場からトンネル建設が自然環境や地域社会におよぼす影響が検討された。さらに八五年三月からは、対馬の四方所に微小地震計が設置されて地震観測が始まるなど、対馬海峡全域の地震解明にも大きく貢献することになった。

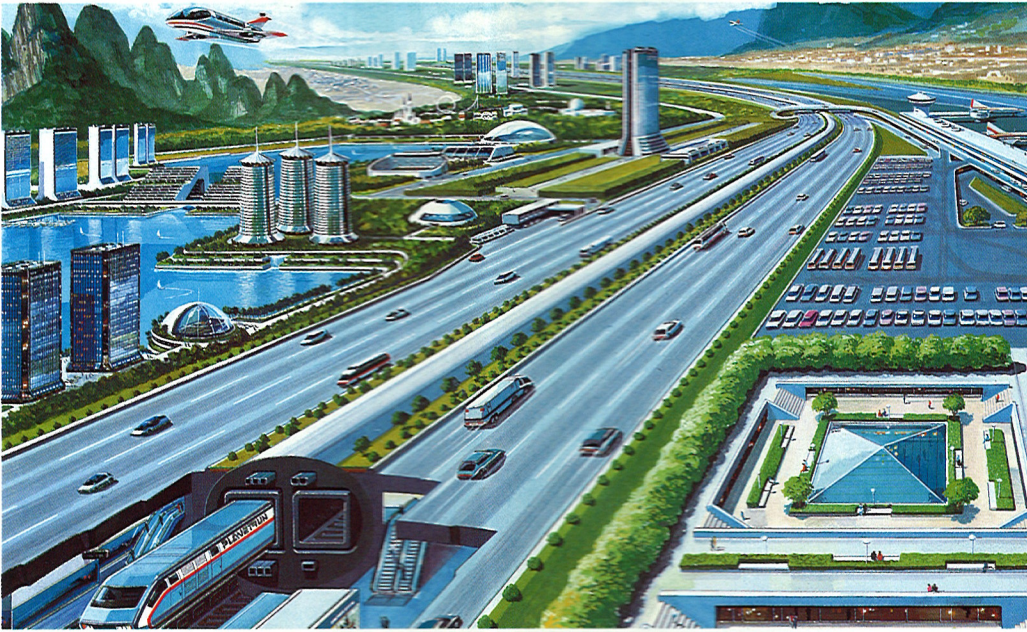
現地で調査活動が活発に続けられる一方、日韓トンネルの研究組織として、八三年五月、日韓トンネル研究会が発足。研究会では多くの学者、技術者が法律・経済・地質・設計・施工・環境などの専門分野にわたって、トンネル建設に必要な研究活動を行っている。またその研究成果は、毎年開かれる総会で報告されるだけでなく、海外の国際会議でも発表され、各方面から大きな注目を集めている。

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1984年 | 1982年 | 1981年 | 1980年 |
| 4・1 青森東沖音波探査の開始
(「スパーク」によるシングルチャンネル方式) | 2・8 日韓トンネル研究プロジェクト・総指針委員会発足委員長 松本正寿 | 11・10 文鮮明師、国際ハイウェイ構想を提唱(第十回「科学の統一に関する国際会議」、韓国・ソウル) | 10・21 第一定安丸(五二二)の進水(E&G&Sパーカーシステム、デッカトリスボンタ測位システム 精密音響測深機搭載) |
| 5・1 対馬北西海域音波探査の開始
(ウォーターガンによるデジタルマルチチャンネル方式) | 4・1 国際ハイウェイ建設事業団設立(理事長 榎栗玄太郎) | 12・10 インターショナルハイウェイ・日本建設準備委員会設置(委員長 榎栗玄太郎) | 10・4 日韓トンネル海域部第一次音波探査の開始
(「スパーク」によるマルチチャンネル方式) |
| 5・24 日韓トンネル研究会第二回総会 | 6・20 日韓トンネル地形地質既存資料の収集 | 10・10 日韓トンネル研究九州支部第二回総会 | 10・21 第一定安丸(五二二)の進水(E&G&Sパーカーシステム、デッカトリスボンタ測位システム 精密音響測深機搭載) |
| 6・1 青森陸上部ボーリングの開始(住吉神社付近、四〇〇ピ) | 6・30 日韓トンネル陸上部第一次地質調査の開始(北九州、青森、対馬南部 唐津事務所併設(佐賀県唐津市)) | 7・27 対馬陸上部ボーリングの開始(厳原町小浦、七〇ピ) | 8・1 東松浦半島陸上部ボーリングの開始(呼子町、五〇〇ピ) |
| 7・21 日韓トンネル研究会九州支部第二回総会 | 8・1 日韓トンネル海域部第二次音波探査の開始
(「スパーク」によるシングルチャンネル方式) | 8・20 日韓トンネル海域部磁気探査の開始(青森水道) | 10・4 日韓トンネル海域部第一次音波探査の開始
(「スパーク」によるマルチチャンネル方式) |
| 7・27 対馬陸上部ボーリングの開始(郷崎、五〇〇ピ) | 9・10 陸上部電気探査および簡易弾性波探査の開始(佐賀県鎮西町) | 9・3 対馬陸上部ボーリングの開始(郷崎、五〇〇ピ) | 10・11 日韓トンネル海域部環境調査の開始 |
| 9・3 対馬陸上部ボーリングの開始(郷崎、五〇〇ピ) | 9・22 日韓トンネル陸上部地形図の作成 | 9・15 国際ハイウェイ建設事業団福岡事務所設置 | 10・20 第二定安丸(二二〇)の進水(ウォーターガンシステム搭載) |
| 9・15 国際ハイウェイ建設事業団福岡事務所設置 | 10・11 日韓トンネル海域部環境調査の開始 | 0・1 日韓トンネル陸上部第二次地質調査の開始(対馬北部) | 10・24 調査斜坑用ボーリングの開始(佐賀県鎮西町、七〇〇ピ) |
| | 10・20 第二定安丸(二二〇)の進水(ウォーターガンシステム搭載) | | 11・7 国際ハイウェイ建設事業団大村事務所設置(長崎県大村市) |
| | 10・24 調査斜坑用ボーリングの開始(佐賀県鎮西町、七〇〇ピ) | | 12・5 対馬南部地域の重力探査の開始(六〇〇測点) |

国際ハイウェイプロジェクト 活動記録

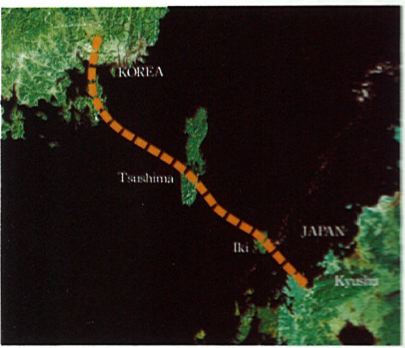
国際ハイウェイプロジェクト

日韓トンネル調査斜

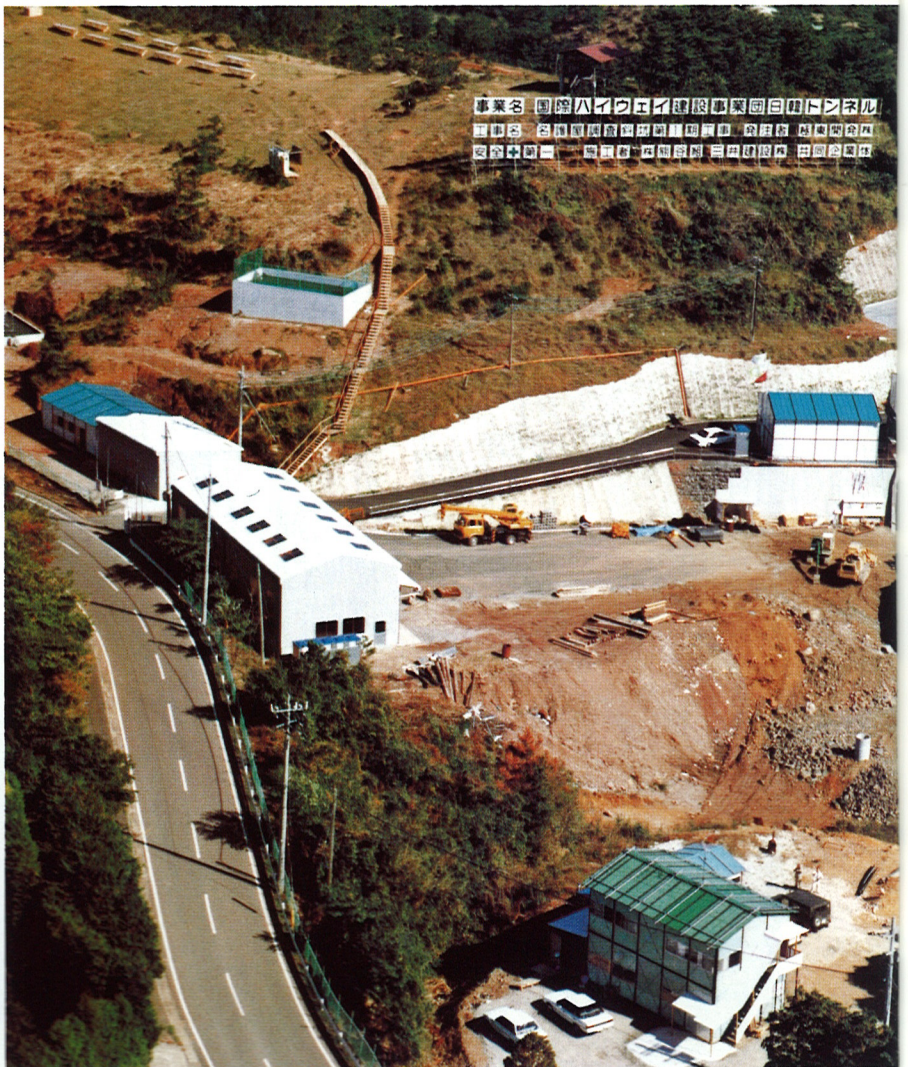


国際ハイウェイ構想

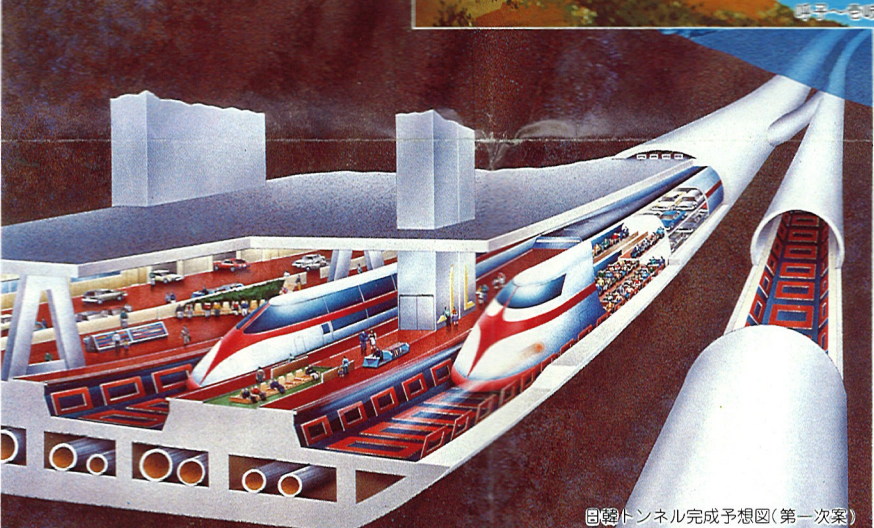
世界各国の都市を高速道路で直接つなぐのが国際ハイウェイである。道路中央には高速鉄道を配し、両側には国境を超越した中立地域として宿泊や娯楽用の施設を建設する。また大都市の近郊には空港も建設する。



▲日韓トンネル予想ルート図



佐賀県西町の日韓トンネル調査斜坑基地からは、遠く吉岐島を眺めることができる



日韓トンネル完成予想図(第一次案)

日韓トンネル計画
日本と韓国を結ぶ日韓トンネルは、総延長五百五十キロを越す長大トンネルで、その大部分は海底を通るようになる。また一部の区間では橋梁も検討されている。

近代化を急ぐ中国にとって最重要課題は、交通網の整備である。渤海地域に豊富に産出する石油の開発と工業化が急がれているものの、交通網が未発達のため進展状況はなかなか進まない。中国大陸を縦横に走るハイウェイは、中国近代化への大きなステップになるのである。そしてその道が韓半島を経て日本へ延びれば、中国としてはもう一歩をあげて歓迎してあげたいのである。また自由の道が日本・韓国・北朝鮮・中国を通れば、自由と兵産の問題も自ら解決されてゆくことになる。アジア共同体構想が構築されれば、アジア全体の繁栄のため、日本がこのプロジェクトの先頭に立ち、率先的に進んであげれば、日本に対するアジア諸国の信頼は高まり、日本人の海外への定着も進むことになる。そしてその道こそ日本が将来に生き残る唯一の道になるであろう。

今後、日本が解決を迫られる問題としては、資源と人口問題をあげることができよう。将来、米国の自由世界が日本の原料輸出を歓迎しなくなると、あるいは世界情勢の緊迫化で海上輸送が困難になった時、日本としては中国大陸へ原料供給の道を求めてゆかなければならぬ。これを必死に模索してゆかなければならぬ時になると思われる。

国際ハイウェイの基本理念

国際ハイウェイ構想は、一九八二年十一月十日、韓国ソウルで開催された第十回科学の統一に関する国際会議(ICSU)の席上、同会議の提唱者であり、国際文化財団の創設者でもある文鮮明師によって提唱されたもので、世界各国をハイウェイで直接つなぎ、高速輸送のネットワークによって、全世界を二日生活圏にしようという計画である。ハイウェイの両側には国境を超越した中立地帯とし、ハイウェイを利用する人のために、空港やホテル、娯楽施設などをつくる。また環境は、ビザなしで通過できるようにする。こうした自由の道を東洋から西洋まで全世界に張りめぐらしてゆく過程で、世界の諸問題を解決し、人類一家族という理想を実現するのである。



調査斜坑の掘削 幅6m、三井建設機で180mほど

一九八五年

- 10・3 吉岐陸上部ボーリングの開始(八幡浦、四〇〇ピ)
- 10・24 対馬陸上部ボーリングの開始(阿連、五〇〇ピ)
- 12・10 対馬陸上部ボーリングの開始(日見川、四〇〇ピ)
- 1・8 吉岐陸上部ボーリングの開始(長者原、四〇〇ピ)
- 3・10 トンネル85・国際シンポジウム参加(英国鉱山冶金学会主催、英国・ブライトン)
- 3・14 微小地震計の設置(対馬、厳原町小浦)
- 4・12 吉岐陸上部ボーリングの開始(高城、四〇〇ピ)
- 4・16 対馬陸上部ボーリングの開始(豆敷内院、六三〇ピ)
- 4・24 「トンネルと新交通システムに関するシンポジウム」で日韓トンネル建設を発表(世界マクロエンジニアリング学会主催、米国)
- 5・29 日韓トンネル研究会第三回総会
- 7・1 吉岐陸上部ボーリングの開始(久喜触、五〇〇ピ)
- 7・6 日韓トンネル研究会九州支部第三回総会
- 8・7 日韓トンネル海城部第一ラッシュの開始(吉岐水道、七里ヶ首橋)
- 9・6 日韓トンネル研究会九州支部吉岐分会設立
- 10・29 吉岐陸上部ボーリングの開始(射手吉触、四三三ピ)
- 11・21 「新しい交通輸送に関する国際会議」で日韓トンネル建設を発表(CIT主催、シンガポール)
- 12・17 国際ハイウェイプロジェクト・日韓有識者懇親会(韓国・ソウル)
- 12・22 微小地震計の設置(対馬、鹿見・尾崎・鴨尾瀬)

一九八六年

- 1・12 吉岐陸上部ボーリングの開始(新城西触、四〇〇ピ)
- 2・8 対馬陸上部ボーリングの開始(久田川、五〇〇ピ)
- 2・15 第一回日韓トンネル佐賀報告会
- 2・17 第一回日韓トンネル報告会
- 3・6 対馬陸上部ボーリング調査の開始
- 4・8 東松浦半島陸上部ボーリングの開始(鎮西町高浦、二〇〇ピ)
- 4・20 海洋ボーリングの開始(対馬西海域、五〇〇ピ)
- 4・29 日韓トンネル調査斜坑基礎杭打ち込み開始(佐賀県西町)
- 5・29 日韓トンネル研究会第四回総会
- 7・14 日韓トンネル研究会九州支部第四回総会
- 7・14 日韓トンネル海城部第二ラッシュの開始(対馬東海域、対馬西海域)
- 7・15 第一回日韓トンネル唐津報告会
- 7・16 第二回日韓トンネル佐賀報告会
- 7・17 第一回日韓トンネル対馬報告会
- 7・19 第一回日韓トンネル長崎報告会
- 8・1 第一次名護屋浦環境調査の開始(佐賀県呼子町)
- 8・19 対馬陸上部ボーリングの開始(十東郡藤野町、四〇〇ピ)
- 9・5 加唐島斜坑のボーリングの開始(三〇〇ピ)
- 9・23 (渡海測量の開始(名護屋・吉岐町))
- 10・4 日韓トンネル調査斜坑掘削(佐賀県西町)
- 10・10 国際ハイウェイプロジェクト・日韓合同会議(東京)
- 10・15 対馬陸上部ボーリングの開始(上東郡下田、五〇〇ピ)
- 10・28 国際ハイウェイ研究会の設立(韓国・ソウル、会長 尹世七)
- 11・27 国際ハイウェイ研究会釜山支部の設立(韓国・釜山、支部長 高志淵)

一九八七年

- 2・27 第二次名護屋浦環境調査の開始(佐賀県呼子町)
- 2・23 第一回日韓トンネル広島報告会

活気づくトンネル建設活動

日韓トンネル建設 最前線から

唐津事務所

事業団設立から四月後の八月、日韓トンネル建設を担う唐津事務所が、佐賀県東松浦半島に現場事務所が仮設された。唐津事務所の出発である。

斜坑の掘削を開始

海域部の調査を進める

起式式のテープカット

二ヶ月後、呼子町で最初の陸上ボーリングが始まり、海域部でも音波探査が開始された。そして翌八月、唐津市市田に新しい事務所と研究所が完成すると、そこを拠点として本格的な調査活動がルート全域にわたって繰り広げられた。

三隻の調査船を進められた。八五年からは、専用漁獲の保安用貯水槽の事が始まり、翌四月から本格的な造成工事の坑口掘削が開始された。また、排水設備が流れ込みを確保するなどの近海では環境調査が行われ、さらに斜坑敷地内では気象観測所も設置され、環境モニタリングなど、この島に国際ハイウェイの建設事務所を設置されたのは八月三日、八五年六月、しかし、建設での調査活動はその一年前から開始された。まず地表面、八六年十月、内外から多量の調査船を起して、斜坑建設の準備が開始された。現在、(株)熊谷組と三井建設(株)の共同企業体によって順調に工事が進められており、三月末で二百八十メートル掘削が完了した。この斜坑掘削の開始により、地元の関心も高まっており、現場見学者も延べ千五百人に達した。

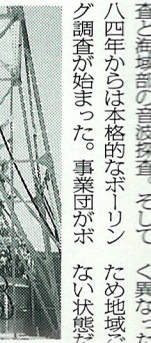
唐津事務所では今後も、斜坑掘削を中心に陸海部の調査活動が展開されていくと思われる。

志岐事務所

呼子港から安良灘をフェリーを越すボーリングは、たつた一本で約一時間、神話の島・志岐島につく。古い歴史をもつこの島は人口約四千人、青い海と美しい砂浜に囲まれており、毎年多くの観光客が訪れる。

複雑な地層を掘る

建設運動を組織化する



陸上ボーリング調査

この島に国際ハイウェイの建設事務所を設置されたのは八月三日、八五年六月、しかし、建設での調査活動はその一年前から開始された。まず地表面、八六年十月、内外から多量の調査船を起して、斜坑建設の準備が開始された。現在、(株)熊谷組と三井建設(株)の共同企業体によって順調に工事が進められており、三月末で二百八十メートル掘削が完了した。この斜坑掘削の開始により、地元の関心も高まっており、現場見学者も延べ千五百人に達した。

建設運動を組織化する。この島に国際ハイウェイの建設事務所を設置されたのは八月三日、八五年六月、しかし、建設での調査活動はその一年前から開始された。まず地表面、八六年十月、内外から多量の調査船を起して、斜坑建設の準備が開始された。現在、(株)熊谷組と三井建設(株)の共同企業体によって順調に工事が進められており、三月末で二百八十メートル掘削が完了した。この斜坑掘削の開始により、地元の関心も高まっており、現場見学者も延べ千五百人に達した。

大村事務所

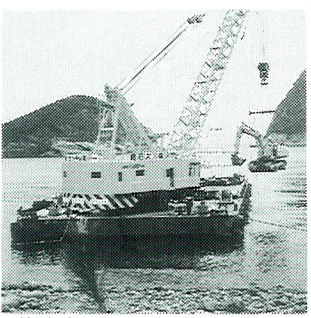
総延長で二百五十キロを越す日韓トンネル建設の全長を網羅するために、航空機の使用が不可欠となる。上空から見ると、海流の動きや複雑な地形、自然環境の移り変わりが一目瞭然となる。

陸海域の地質調査

対馬の開発計画も検討

この国境の島に国際ハイウェイ建設事務所が設置されたのは八三年五月。以後四年間、対馬では韓国と陸続きになる日を期して陸海部の調査活動が活発に展開されてきた。

陸域部では、八二年から地表面を掘削して、地元の関心も高まっており、現場見学者も延べ千五百人に達した。



海からボーリング資材搬入

観測所を設けて対馬海峡全域を網羅する観測体制をつくりあげた。現在も観測が続けられており、日韓海峡の成因や変動を解明する上でも非常に有用なデータが得られている。海域部では、三年間は音波探査によって、対馬と韓国の間に厚さ二キロを望まれるようである。



離陸するスカイホープ号

航空機による調査活動も高まる。対馬と韓国の間に厚さ二キロを望まれるようである。

空からの支援体制

建設の機運も高まる

航空機による調査活動も高まる。対馬と韓国の間に厚さ二キロを望まれるようである。

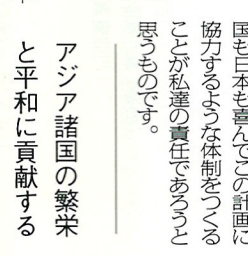
トンネル建設通じ

日韓トンネル建設通じ、日韓トンネル建設通じ、日韓トンネル建設通じ、日韓トンネル建設通じ。



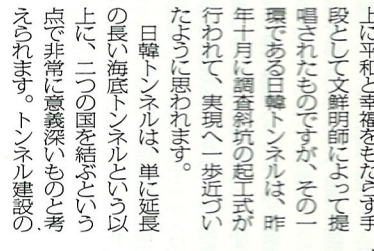
日韓トンネル研究会会長 佐々保雄

国際ハイウェイ構想は、地上に平和と幸福をもたらす手段として文藝界によって提唱されたもので、その一環である日韓トンネルは、昨十月に調査斜坑の起式が行われて、実現へ一歩近づいたように思われます。



北原正一 (熊谷組事務取締役)

アジア諸国の繁栄と平和に貢献する



国際ハイウェイ構想は、地上に平和と幸福をもたらす手段として文藝界によって提唱されたもので、その一環である日韓トンネルは、昨十月に調査斜坑の起式が行われて、実現へ一歩近づいたように思われます。

国際ハイウェイ構想は、地上に平和と幸福をもたらす手段として文藝界によって提唱されたもので、その一環である日韓トンネルは、昨十月に調査斜坑の起式が行われて、実現へ一歩近づいたように思われます。



福田信之 (前筑波大学学長)

国際ハイウェイは、未来世界照らす光

賛同者のメッセージ

ハイウェイ構想への期待語る

世界平和の達成は、為に生きる精神で。元駐大韓民国大使 金山政英。私は外交官として、常々平和の問題を考えていますが、結局、国家同士が協力して善なることをする努力がない限り、世界平和は達成できないのではないかと考えるようになりました。

私には外交官として、常々平和の問題を考えていますが、結局、国家同士が協力して善なることをする努力がない限り、世界平和は達成できないのではないかと考えるようになりました。

建設推進で世界へ歓迎される日本へ。九州大学名誉教授 高田源清。欧州では現在、東西南北に道路が走り、実質的には一国家の体を成しつつあります。またその建設に要する技術と資金は、現在の日本の国力からすれば問題ありません。

現在の日韓トンネル建設は、多額の資金をもち、これをもち、資